

作物名：大豆

病害虫名：ジャガイモヒゲナガアブラムシ（学名：*Aulacorthum solani*）



成虫（有翅虫） 成虫（無翅虫）と食害痕（黄変部分） 多発時の食害痕（黄変部分）

1 被害状況

（1）被害の特徴

ダイズの生育後期に多発する。本県では、例年8月下旬から9月上旬に発生密度がピークに達する。吸汁されると葉に黄色い点々の吸汁痕が見られ、早期落葉を引き起こして収量や品質に影響を及ぼす。

ダイズわい化病を媒介する。わい化病多発地帯では、感染期間の6～7月に本種の発生量が少なくても発病率が高い。わい化病にかかると大豆は全体に萎縮したり、葉が縮んだりする。収穫期になっても落葉せずに茎葉に緑色が残ることが多い。

（2）虫の特徴

ダイズの発芽直後から、葉裏や未展開葉に寄生が認められる。体色は黄～緑色、無翅成虫の体長は2～2.5mm。触角は体長より長く、角状管は体色と同色で末端は黒い。

ダイズアブラムシは本種よりも小さく、触角は体長よりも短く角状管は暗色。

2 生態

ギシギシ類、クローバ類で卵越冬する。春早く孵化した無翅虫（幹母）から生まれた有翅虫は、ダイズに発芽直後から飛来する。この有翅虫は子虫を産み無翅虫となる。ダイズ上で増えるのは無翅虫で、秋になると有翅虫が現われ、越冬植物に移動する。

わい化病発生地帯のクローバ類は、大豆わい化病ウイルスを保毒している。

生育期間は幼虫7日(25)～14日(15)、成虫15～30日で40～60頭の子虫を産む。

3 防除対策

化学的防除：播種時の粒剤溝施用あるいは、発芽後～生育初期に、薬剤を茎葉散布する。

生育後期に多発する恐れがある場合は、発生密度がピークに達する前に薬剤散布する。

4 出典

（1）参考文献：原色病害虫診断防除編1（農文協）

病害虫防除・資材編1（農文協）

（2）写真：宮城県病害虫防除所撮影